

市長記者会見記録

日時：2024年10月1日（火）14時00分～14時34分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：「第41回 全国都市緑化かわさきフェア」を開幕します！【建設緑政局】

<内容>

【議題】

◀「第41回 全国都市緑化かわさきフェア」を開幕します！▶

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は『第41回全国都市緑化かわさきフェア』を開幕します！」となっております。

初めに、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願ひします。

【市長】 それでは、『第41回全国都市緑化かわさきフェア』を開幕します！」について、私から説明させていただきます。

かわさきフェアについて、2分間のPR動画を作成いたしましたので、まず初めに前のモニターを御覧いただきたいと思ひます。

（映像上映）

【市長】 ありがとうございます。

全国都市緑化フェアは、国民ひとり一人が緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるために、昭和58年（1983年）から毎年全国各地で開催されている花と緑の祭典になります。

令和6年（2024年）、川崎市は市制100周年を迎えたことから、その象徴的な事業として、国内最大級の花と緑の祭典である第41回全国都市緑化かわさきフェアをいよいよ10月19日から開催いたします。

初日9時から始まるオープニングセレモニーでは、富士見公園のリニューアルとフェア会場のオープンを記念してテープカットを行います。その後、会場をカルッツかわさきに移しまして、10時30分から、会場制作に携わっていただいた方々や、日頃から地域の緑化活動に貢献していただいた企業、団体、次世代を担う子供たちなどを招待し、総合開会式を開催いたします。

次に、会場の見どころについてでございますが、各会場が持つコンセプトに応じてガーデン展示やイベントを企画しておりまして、パンフレットではその特徴がより伝わるような工夫を凝らしておりますので、併せて御覧いただければと思ひます。

まず、富士見公園会場です。来場される皆様を最初にお出迎えするエントランス広場には、高さ約3メートル、幅約17メートルのフラワーゲートや、川崎の工業都市としての歴史や、緑豊かな環境先進都市への移り変わりを、工場モチーフやコスモスなどのピンク色を基調とした花畑で表現した、没入体験型の大規模なメインガーデンが見どころとなります。また、期間中、毎日、夜間のライトアップを実施しておりまして、花と緑、光がつくり出した幻想

的な空間を御覧いただくことができます。

次に、等々力緑地会場です。正面広場に木製パレット4,500枚を活用いたしまして、ゲートやガーデン、木陰のトンネル等を作り出し、花や緑でエコロジカルな木質空間を演出することで、印象をがらりと変化させています。その奥に広がる体験・体感型の全長75メートルのガーデンでは、視覚、聴覚といった五感の仕掛けを40以上御用意いたしております。

また、催物広場では週末ごとに様々なイベントが行われますが、特に食にまつわるものでは、武蔵小杉のカレーフェスであるコスギカレーEXPO、全国のサツマイモを楽しめる超芋まつりなどを開催いたします。

最後に、生田緑地会場です。市内随一の緑の宝庫で、会場そのものが見どころの一つです。緑地・自然の魅力を生かし、緑地内で発生した竹材のアーチや灯籠によるエントランスゲート、藍染めや霧を使ったインスタレーションによるメタセコイア林の特別演出など、生田緑地の豊かな緑とアートがつながっていく風景は必見です。

また、かわさきフェアの会期に合わせて一般開放を行う生田緑地ばら苑では、期間限定の特別な演出をお楽しみいただけます。

各会場、それぞれのコンセプトと緑をかけ合わせ、新しい緑の価値として発信するため、展示の計画段階から多くの地域団体、企業の皆様、そして川崎の未来を担う市内小・中・特別支援学校全170校の児童生徒の皆様に御参加いただくなど、創意工夫をしながら多くの時間をかけて制作を進めてまいりました。

都市の中の緑の価値が改めて見直される中で、次の100年に向けて豊かな緑をつくり出していくため、緑を知ってもらい、日常生活に緑を取り入れるきっかけや気づきを通じて、都市の中でも自然を感じて共に暮らす新たなライフスタイルをこの川崎から発信してまいりたいと考えております。

最後になりますが、冒頭に御覧いただきましたPR動画は、若い世代をはじめ、広い世代の方々にかわさきフェアを知って共感を持ってもらうため、今年成人を迎える同世代の若者を代表して鈴木福さんに御出演をいただき、かわさきフェアの会場や市内の映えスポットの写真を撮りながら巡ることで、人と人との交流の広がりや川崎の魅力を発信するものです。

ぜひ多くの皆様に御来場いただきまして、この秋のかわさきフェアでしか体験できない特別なお時間を過ごしていただければと思います。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました議題について質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑については、議題の質疑が終了後、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社様、よろしく申し上げます。

【読売（幹事社）】 幹事社の読売新聞です。よろしくお願ひいたします。

緑化フェア、もう間もなくというところですが、3つ会場があるというところで、

市長がここはお勧めだと胸を張って言える場所、何か1ついただければなと思うんですけども。

【市長】 何か1つというのはすごく難しく、まさに川崎の特徴的な公園、南、中、北の特徴、その公園に合った特徴を生かした展示になっていますので、ある意味全てが見どころになっていて、3会場全部見ていただきたいと思っています。先ほど申し上げたように、都市の中の緑の価値というのをそれぞれのパターンで楽しんでいただけたらと思いますので、できれば、期間、それなりにありますので、秋と春、両方楽しんでいただきたいと思っています。

【読売（幹事社）】 鈴木福君が動画に出ているということですが、同世代、親しみを持ってという理由をおっしゃっていましたが、なぜ彼、どういう、何か川崎とつながりとかがあったのか、ちょっと調べた……。

【市長】 いや、川崎とは特に今まではないと思っていますけれども、先ほど見たように、なるべく若い世代の、福君、非常に幅広い世代に受け入れられている、そういうタイプの方だと思っていますし、特に緑のことについて、若い世代にも「知って、関わって、好きになってもらう」という趣旨からいうと、非常に適任な方なのではないかなと思います。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【NHK（幹事社）】 幹事社のNHKです。

1点だけ、この都市緑化にかける市長の思い入れ、思いみたいところがあれば教えてください。

【市長】 川崎、今年100年ということでありましてけれども、この100年の中で、川崎の緑というのは、住宅開発ですとか、そういったことによって大きく失われてきた100年でもあったと思いますけれども、これからは、やはり量だけではなくて、緑の質、高い質の緑をみんなでつくっていく、守っていく、そういったことのきっかけになるような、そういった1つのメルクマールとなるような、そんな機会にしたいと思っています。先ほど申し上げましたけれども、小・中・特別支援学校、全ての学校が苗作りなどに参加していただくということで、次の世代に必ず緑と共にある暮らしというのを、川崎で、100年、1年目から取り組んでいる1つの大きなきっかけになるといいなと思っています。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

【読売（幹事社）】 幹事社、以上になります。

【東京】 東京新聞です。

ちょっとくだらないことになってしまうかもしれないんですけども、今回の緑化フェアを、この後横浜で開かれる園芸博につなげなきゃいけないという思いも聞きますけれども、園芸博のアンバサダーがたしか愛菜ちゃんだったと思うんですが、愛菜ちゃんと福君という、やっぱり「マルモ」を思い出したりとか、つながりがある2人なのかなというイメージがあるんですが、今回福君を選んだのに愛菜ちゃんとのつながりというのは関係あるのでしょうか。

【市長】 いや、何かあるんですか。

【建設緑政局】 裏のテーマとしては、少しそういった意識もしつつではありますけれども、先ほど市長がお話しされたような理由が基本的な選定理由でございます。

【東京】 愛菜ちゃんあつての福君ということになるんですか。

【建設緑政局】 そういったことではなく、先ほど選んでいただいた、基本的な考え方としては、市民の皆様にも共感を持っていただくですとか、話題ですとか、インパクトみたいなどころから始まっていますし、二十歳を代表する若い方にといいところもあります。ただ、選定する中で、背景としてそういったものもあると裏テーマになるかなというところは、少し認識しているところでございます。

以上です。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして議題の質疑を終了させていただきます。

引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきましては、改めて幹事社様、よろしく申し上げます。

【市政一般】

《新たな内閣や国政選挙等について》

【読売（幹事社）】 読売新聞です。

選挙のことで、もう解散、投開票10月27日に決まりましたけれども、川崎市も4つ選挙区、関係するところがありまして、今後の、川崎市がやっていることを国に広めていくという重要な選挙になると思うんですけれども、どういう選挙に、市長という立場からですけれども、なってほしいという願いというか、何かありましたらお願いできればと。

【市長】 そうですね。これまで国に対して要望してきたことがしっかりと議論の俎上にのるような選挙戦であってほしいなと思います。一例で言いますと、子育てのところみたいなものは、下手な地域間競争ということではなくて、国としてどういうふうにやっていくのかということをしつかりと議論していただくことは大事じゃないでしょうか。そういったテーマ、私たちの生活に関連するテーマがこの選挙戦を通じて議論されることが非常に大事だなと思っていますし、なかなか、私たち、指定都市市長会として特別市のこと、大都市制度の話も言ってきましたが、こんなに早いタイミングで総選挙が来るとは思っていなかったもので、どこまで議題に上るか分かりませんが、やはり地方が豊かであって初めて国が豊かになると思いますので、そのことが議論されることを期待はしております。

《社会福祉法人母子育成会への監査等に係る検証等について》

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

ちょっと話変わって母子育成会のことなんですけれども、先月、初めてお三方が集まられたの会合が行われて、その中で今後の見通しなども示されるところで、3月に報告書を作るまで、途中で我々とかにお見せする途中報告とかもないという状況でお示しされたんです

けれども、始め、第三者委員会の設置を検討するというのも、市長もぶら下がりの中でおっしゃったこともあった中で、若干透明性というものがもう少しあってもいいんじゃないかなという思いも少しあるんですけども、今回この決まった会合の形とか、今後、途中でこういう途中経過状況ですよと御説明するとか、そういった考えとかというのは市長としてはどうかと。

【市長】 いずれにしても、透明性を高くしていくことはすごく大事なことでと思います。報告が出たときに、しっかりそういうことも、あらゆるところで検証されたんだということがしっかり分かるような形が大事だと思います。やり方というのは、私がどうだ、ああだというのちょっと、介さないほうがいいと思うんですけど、いずれにしても、しっかりとした検証がなされるのが大事だと思っていますので、それについてはちゃんとしていただけのものだと思っています。

【読売（幹事社）】 やり方は、市長自身は介さないほうがいいというのは、どういうお考えで、そういう。

【市長】 客観的なものをちゃんと、3者の外部の方を入れて検証していくという話ですから、そのやり方というのは、どういうものが客観的で、活発な議論がなされるやり方かというのは考えられるべきじゃないかなと思います。

【読売（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【NHK（幹事社）】 各社さん、どうぞ。

《新たな内閣や国政選挙等について》

【共同】 共同通信です。

本日、臨時国会が召集されまして石破内閣が発足するんですけども、石破内閣に対する、今、報じられているところでありますが、印象と、望むことがあれば伺えますでしょうか。

【市長】 そうですね。これから内閣が何を目指すのかという所信が述べられる前に石破さん、政権に期待するというのちょっとあれですけど、私たちがこれまで、従来求めてきたことを、しっかりと安定感を持ってやっていただけるように望むところでありますけれども、まずは選挙ということなものですから、その布陣を見て、またしっかり要望していきたいと思っています。

【共同】 何をするかまだ話されていないというところでしたけれども、今回、国会が会期9日となって、予算委員会もないまま解散ということですけども、そういう意味では、今のお話を伺っていると、もう少し議論が国会でなされたほうがいいというふうにも伺えたんですけど、その点については、何かお考えありますでしょうか。

【市長】 石破、もう総理になられたんでしょうか。

【共同】 今やっている……。

【市長】 やっているところですか。なられる石破さんが、国民にしっかりと、判断がつくような選択肢をしっかりと示すというお話をされておられたので、それは与野党ともし

っかりお示しされてじゃないと、恐らく選挙にならないというか、国民が分からないということであってはならないと思うので、それは当然、与野党ともにお示しされるんじゃないかなと思います。

【共同】 かなり会期が短いんですけども、それでも十分な選択肢は示されると思われませんか。

【市長】 どうなんでしょうね。それは、私の立場で言うのはあんまり適切じゃないかもしれませんが、できるだけ選択肢をしっかりと示すということが大事じゃないかという感想だけ申し上げておきます。

《高津区におけるマンション建設について》

【東京】 東京新聞です。

高津区の大山街道沿いに野村不動産が15階建ての高層マンションの建設を計画しております。このことで何点か市長にお伺いできればと思います。

御存じのとおり、歴史のある宿場町であり、市の景観形成地区でもあるということで、周辺の住民から、景観が踏みにじられる、あるいは交通渋滞、そんなのが心配だという懸念が出ていて反対運動も起きております。こういう住民の反対の声が出ているということについて、市長は把握されているでしょうか。把握されているということであれば、どのようにこのような反対運動が起きていることについて受け止められているかというのをまず教えてください。

【市長】 把握しております。市長への手紙ですとか、東京新聞さんの記事を通じても知っていますということでもありますけれども、また、主張についても把握しております。

以上です。

【東京】 反対の意見については、どのように思われますでしょうか。

【市長】 そういった御意見があるということは分かりました。

【東京】 市のほうとしては、条例に基づいて手続が進められていて問題がないということですけども、一方で、住民のほうから説明会を開いてほしいと、それ以前は個別の説明だったので、住民説明会を開いてほしいということで、市のほうも不動産のほうに働きかけて、26日に説明会が開かれましたけれども、なかなか住民の人は納得していない様子でした。そして、再度説明会を開いてほしいという声もあって、市のほうから、ちゃんと説明を尽くすように野村のほうに言ってほしいという声も出ていましたけど、その辺りはいかがでしょうか。

【市長】 今質問いただきましたように、総合調整条例に基づいて、住民への説明会というのを市のほうから促して、説明会をやっていただいたということでもあります。引き続き丁寧な住民説明を行っていただきたいという形で、担当局のほうから指導していると伺っています。

【東京】 それと、条例なんですけれども、住民に同意を求めるようなものじゃなくて、しっかり説明してくれというような内容で、この辺は、住民からすれば、事業者には有利な仕組

みんなじゃないかという声も出ていますけれども、現行のマンション建設、あるいは開発等の条例手続について、何か問題があるとか、少し改善したほうがいいんじゃないかというような問題意識みたいなものはございますでしょうか。

【市長】 基本的な話ですけど、私たちは法律にのっとって仕事をしているわけでありまして、プラス、景観条例でありますとかというところに基づいて、いろんな助言などをさせていただいております。今回のことについても、景観条例に基づいてアドバイザー会議といったところから助言を行っている、事業者に対しての助言をしていると伺ってまして、それについて、事業者も対応を検討中だと伺っています。

そういったところですから、一般的な法律だけではない丁寧な対応というのはできているのではないかと思います。それを超えてまでということ、なかなかの現行の法令上は難しいのではないかと考えています。

《タワーマンションの建設等について》

【東京】 それともう一点、今回の大山街道の問題に限らず、川崎市では武蔵小杉周辺のタワーマンションがよく知られていまして、最近も三菱地所の新たなタワーマンション計画が進んでいると聞いております。タワマンをめぐっては、人口が減少する中、大量にこういう住宅を供給するのが必要かどうかですとか、タワマン自体の大規模な修繕が可能なのかどうかとか、そもそも災害に弱いんじゃないかという懸念が出ているのは御存じかと思えますし、神戸市ではタワマンを規制すると、規制を実際に行っていますけれども、この辺のタワーマンション、今日の緑化の冒頭のビデオでも武蔵小杉が出てきて、タワーマンションと緑が絡んだシーンが出てきましたけれども、この辺のタワーマンション自体の是非なり、この辺のいろんな懸念点について、市長として、改めてお考えを聞かせていただければと思います。

【市長】 タワマンだけを切り取ってという形は、ちょっとなじまないんじゃないかと思えますけれども、そもそも武蔵小杉の開発というのも、あのまま普通に乱開発が進んでしまえば、ふさわしい土地利用ができなくなるおそれがあることから、ああいう取組が現在も続いているということでありまして、その再開発の意義ということがしっかりと市民の皆様理解されるということは、僕は大事だと思います。1つのタワーマンションということだけを取って、それがいいか悪いかというのは、実に議論としてはなじまないと思っております。

以上です。

【東京】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

《川崎市民館・労働会館の改修工事について》

【東京】 東京新聞で続いてしまって申し訳ないんですけども、労働会館の改修工事の件で、地中から埋設物が見つかって、工事費用も期間も延びるということが分かりましたけれども、このこと自体についてと、あと、先日の決算審査特別委員会で委員のほうから、まちづくり局が6月に把握したのに、まちづくり局が市長に対して詳細説明したのが2、3か月

かかったのは反省すべきだという指摘がありましたけれども、説明まで3か月かかったことについての市長の見解を伺えますでしょうか。

【市長】 まず、8月だったと思いますけれども、第一報については、こういう事象が発生しているということは一報入っておりますので、詳細なものが入ってくるのは少し遅れたというのはありますが、事態自体、事態そのものは私は把握しておりますので、特に遅れているという感覚はありません。

しっかりと、このケースじゃなくていろんなケースであることなんですけど、一報は入れる。だけど、詳細に把握をして、どのぐらいコストがかかっていく、期間がかかるんだろうということを一定程度精査して、私のところに再度報告が上がってくるという手順は今回も同様だと思っていますので、特に担当局に不備があったとは、私は思っておりません。

あと、どう思うかということでしたっけ。ごめんなさい。

【東京】 労働会館の工事費用と、あと工事期間の延長についてそのものです。

【市長】 こういう事態が、埋設物が出てきてしまったことは大変残念です。こういうことはこれまでもありましたけれども、かなり古い建物を掘り返してみると、図面にはなかったようなものが出てくることは、これまでも本当にたくさんの事例があります。毎回びっくりするんですけども、当時はそういうことだったんでしょうと。そういう残置物がありますと、当然、今まで予見していなかった工事費だとか期間が延びてしまうということで、利用されている市民の皆様にも、また延びるということになって大変申し訳なく思っておりますが、こういったケースはこれまでもあるし、これからもあると思っています。

期間が延びると、この御時世でありますので、費用もかなりかさんでくるということで、大変残念だと思いますけれども、しかし、これも致し方のないことだというふうにぜひ御理解いただきたいと思っております。

【東京】 第一報が8月にあったということなんですけれども、そもそもまちづくり局で6月に把握していて、8月に第一報というのも遅いんじゃないのかなというのが、何となく私としては感じてしまうんですけど、市長の感覚としては、6月に把握して8月に一報というのは、別に普通という感じでしょうか。

【市長】 案件によりますね。その日のうちに、事象が発覚してから数十分で入ってくる事案もあれば、このように時間がかかることもあります。特にこれが1か月前に分かっていようが、何か事象に変化があるとは私は思っておりません。そういった内容だという意味です。

【東京】 ありがとうございます。

《都市の災害対策等について》

【読売（幹事社）】 先ほどのタワーマンションにちょっと関連するんですけども、台風15号、2019年から、間もなく、大きな被害があったのから5年たつんですけども、調べて取材していると、タワーマンションも新たに防水板を設置したりとか、結構いろんな対策をやっているんですけども、そういったものは御認識とかなされていたりとか、市として今後また新たに補助を増やしていくとか、そういうのはどうですか。

【市長】 15号の台風のときもそうだったんですけども、新しく建ったマンションについては、キュービクルを上を上げているとか、新しい建物に対しては、かなり風水害に対応しているマンションはできてきています。今、もう大体そういうものが標準になってきていると思っています。

それ以前のマンション、建物というのは、その準備がなかなかまだ整っていなかったところがありますので、これまでもそうですけれども、今後建っていくものについては、かなりそういった対策がしっかり取られているというのが、ある意味必須な条件になってきているのではないのでしょうかという感想を持っております。

【読売（幹事社）】 ある意味、水害のときにタワーマンションが大きな災害になるというのは、あれで結構全国の方が認識された側面もあって、川崎が今後やっていくことがある程度モデルケースとして、例えば東京の江東区とかでも結構展開されていくと思うんですけども、都市の水害対策ということについて、見解というか、こういうふうに川崎市は今後もやっていきたいというの、何か1つコメントいただければなと思うんですけども。

【市長】 そうですね。まず、ハード的にできるものと、それは15号、19号などの風水害を受けて取り組んできたのは、短期、中期の取組を行ってきました。一方で、ハザードマップを含めて、浸水・洪水マップというのが広く市民の皆さんに大分認識されてきている部分があります。お住まいの地域がどういったところなのかということも認識された上で、ハード的なものだけでなく、ソフト的なものをどうするかということも、しっかりこれからも広報、啓発していかなければならないと思っています。

そういった意味で、長期的な対策というのは抜本対策、多摩川、鶴見川に挟まれているということで、多摩川の脆弱性のことを考えると、ある意味ポンプ場の設置みたいな大がかりなことが、当然今後必要になってくると思います。そういった、時間も費用もかかることだけでない対応を、市としても、それから住民の皆さんにも理解を深めて、やっていかなければならないということは認識しております。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございます。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当